みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

# 研究資料アーカイブズにおける資料情報の記述と公開：講演会「アーカイブズ・オブ・アメリカンアート（AAA）のすべて」より



| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2017-10-11<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 丸川, 雄三<br>メールアドレス:<br>所属: |
|---|---|
| URL | https://doi.org/10.15021/00008497 |

# 研究資料アーカイブズにおける資料情報の記述と公開

## ──講演会「アーカイブズ・オブ・アメリカンアート（AAA）のすべて」より

アーカイブズの構築には多くの困難がともなう。図書館や研究施設など、対象となる資料や方法も機関によってさまざまである。本稿では、昨年日本で開催された講演会の内容をもとに美術研究資料のアーカイブズである Archives of American Art（以下、AAA）の取り組みをひもとき、専門機関における研究資料アーカイブズの情報化について考える。

### アメリカ随一のアート・アーカイブズ

2016 年 6 月 18 日（土）、東京国立近代美術館の講堂で、公開講演会「アーカイブズ・オブ・アメリカンアート（AAA）のすべて」が開催された。AAA の関係者による初の来日講演となった本会には、リザ・キルウィン副所長とカレン・B・ヴァイス情報資源部長が参加し、AAA のコレクションと活動について発表した（水谷 2016）。講演内容は東京国立近代美術館のホームページで公開されている（http://www.momat.go.jp/am/visit/library/aaa20160618/）。

AAA は、スミソニアン協会に所属し、アメリカ美術の歴史的研究を支える一次資料の収集、保存、および公開をおこなっている。1954 年の設立以来、2,000 万点にものぼる手紙や日記、写真、ノート、財務記録のような記録資料などをコレクションしている。資料は芸術家やその家族のみならず、批評家やミュージアム、ギャラリーなどの幅広い対象から収集しており、芸術家を取り巻く複雑な関係性を高度に保存する、アメリカ随一のアート・アーカイブズとなっている。

講演では、キルウィン副所長が A から Z の頭文字で始まる 26 種類の資料を順に紹介し、コレクションの多様さとその価値の高さの一端をわかりやすく説明した。たとえば「N」では、風景絵画で有名なマーティン・ジョンソン・ヒードによるハチドリに関するノート（Notebook）を取り上げた。これは未刊の「ハチドリ図巻」の草稿であり、後に南米の風景や鳥を題材とした幻想的なスタイルを確立する画家の、芸術家へ至る試行錯誤の跡を読み取ることができる貴重な資料である。

### アクセス向上への取り組み

次にヴァイス情報資源部長の講演では、おもに情報管理面の取り組みが紹介された。AAA は設立当初より資料のマイクロフィルム化を積極的に進めてきた。1970 年にスミソニアン協会に加入した後は、国立機関として求められる情報公開と連携強化を、スミソニアン協会中央情報技術部のサポートを受けながら実施することとなった。その一例として、機械で読み取ることができる資料目録の記述形式（MARC 準拠フォーマット）への、早い段階での対応が挙げられる。これまで独自の形式で整備してきた目録の記述を標準化することによって、スミソニアン協会の他の機関と連携する土台がつくられた。実際に 1985 年にはスミソニアン協会書誌システム（SIBIS）への情報統合を実現し、従来はおもに図書を対象としていたデータベースで、新たに AAA の資料を検索対象とするなどのアクセスの向上を果たした。

AAA は、1990 年代になりマイクロフィルムのデジタルスキャンに取り組み、その際に、MARC をベースに開発された符号化アーカイブズ記述（EAD）を新たに導入した。EAD は来歴や利用条件などの資料に関するさまざまな内容や関係性を、計算機が解析できる形でデータ化するための形式である。EAD による資料関係情報のデータ化によって、従来のシステムでは扱いきれなかったデジタル画像を含む膨大で複雑な情報を、そのままインターネットに公開することが可能となった（https://www.aaa.si.edu/）。さらに現在は、データの意味解析に向いた EAD の特徴を活かし、概念参照モデル（CIDOC CRM）へのマッピングや、リンクト・オープンデータ（LOD）などの導入によって、他機関とのより高度な連携へと積極的に取り組んでいる。

アーカイブズにおける資料情報の記述作業は目録の作成にはじまり、その後の調査や研究によって判明した内容や利用履歴などを付与する。近年では、資料をデジタル画像として複製し、保存管理する必要もある。このように増大する資料関係情報を蓄積し、同時に利用しやすい形で公開することはとても難しい。

マーティン・ジョンソン・ヒード「カトレヤと 3 羽のハチドリ」（Martin Johnson Heade, *Cattleya Orchid and Three Brazilian Hummingbirds*, 1871, National Gallery of Art 所蔵）。

AAA は設立当初からアーカイブズの蓄積という点では優れた体制を持っていた。その後スミソニアン協会の一機関となることで、MARC や EAD などによる資料情報の記述を充実させ、一般公開によるアクセス向上につなげることができている。美術研究の専門機関においてアーカイブズがここまでバランスよく整備されている例は、世界的にもまれであると思われる。こうした AAA の取り組みは、アーカイブズとその情報化を考える上で、他の分野の研究機関においても参考になる点が多い。

**【参考文献】**

水谷長志 2016「公開講演会『〔ワシントン・スミソニアン機構〕アーカイブズ・オブ・アメリカンアート（AAA）のすべて』報告──AAA コレクションの多様性・高エビデンス性とアクセス可能性をめぐって」『現代の眼』620: 14-16.

文　丸川雄三

国立民族学博物館人類基礎理論研究部准教授。専門は連想情報学による文化情報発信手法の研究。これまで手掛けた主なサービスは、『文化遺産オンライン』（http://bunka.nii.ac.jp/）、『実業史錦絵絵引』（https://ebiki.jp/）など。